

1-1 第 1 回景観検討委員会の議事概要

前回は、現地をご覧頂いた後、主に現地の印象と橋の色彩に関する方向性に関して、たくさんのご意見をいただきました。詳細は別紙を参照していただくこととして、ここではどのような意見が出たかについて、概要を整理しました。

デザインコンセプト、色彩選定の方向性に関する主要意見の整理

- 1) 周辺建築(茶系)との関係を明らかにする必要がある。
- 2) 周囲に埋没せず、ある程度存在感のある色彩が良い。
- 3) アクセントカラーを取り入れる必要がある。
- 4) 周辺とのコントラストがあるよう、明るめの色彩を選定するのが良い。
- 5) 照明(ガス灯をイメージしたオレンジ系の光源)と調和する色彩が良い。暮れなずむような雰囲気が良い。
- 6) 浅野川大橋を代表格とする浅野川は着物が映えるような女性的な雰囲気がある。暖色系である。(それに対し)犀川(犀川大橋)は男性的な寒色系が良い。
- 7) 参考事例にあるような赤や黄(高彩度色彩)は好ましくない。

その他

- 1) 日本の伝統色から選定するのが良い。
- 2) 文化財の価値をPRする必要がある。
- 3) 金箔を用いてみたい。

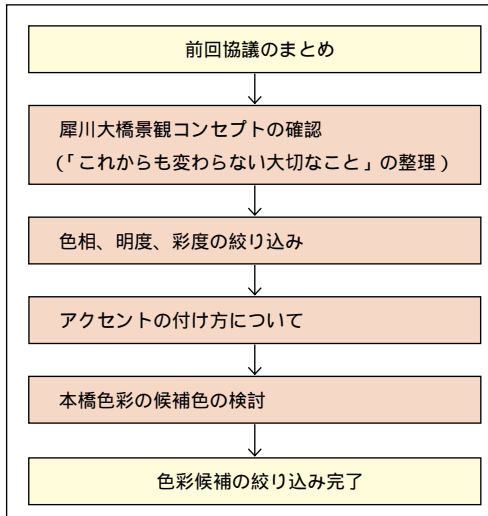
明 度：明るい色彩がよいとの意見が多いようです
 彩 度：色味で表現すべきではないとの意見から高めは回避するのがよいようです。
 色 相：水と緑に代表される寒色系、電灯の暖色系など、様々です。
 その他：金箔など、アクセントが必要との意見がありました。
 まずは「色相(色味の方向性)」について集約が必要のようです。

1-2 色彩検討の手順

前デザインコンセプトに大きく影響する「色味」については、委員の皆様のご意見・ご議論を、まだまだ頂戴する必要があります。一方「明るさ」「鮮やかさ」については前回委員会で一定の方向性に集約可能な議論を頂戴したと理解しています。

また、日本の伝統色から、今回は候補色彩を提示したいと考えておりますが、通常土木・建築分野で用いられている「日本の伝統色色見本帳」には約300色も納められております。

限られた時間内で、色彩を絞り込むに当たり、以下の手順で検討を進めたいと考えております。



検討フロー(案)
赤が議論の中心

1-3 色彩イメージの提示手法について

橋の色彩を決めるに当たり、具体的色彩はもちろん重要なことですが、それと同様に周辺との関係も極めて重要な要素と考えます。

色彩そのものは、色見本等適切な資料はありますが、周辺との関係を確認する上では、当然のことながら現地で試験塗装をするわけにはいきませんので、簡易的な視覚資料の作成が必要です。しかし、現実の色との整合性を突き詰めるには限界があることから、以下の2つの資料を提示させて頂こうと考えました。

具体的色彩：色見本

景観イメージ：簡易フォトモンタージュ(内からの見え方、外からの見え方)

1-4 その他(留意事項)

色名の提示方法について

色彩の提示は色名前で提示するほか、比較に議論が容易にできるよう「マンセル値」も添えさせていただきます。

色の実際の見え方について

色見本を提示させて頂きますが、実際塗られる面積は大きくなることから、一般的には、現在御覧頂いている色見本より「明るく」感じます。これは「面積効果」と言われる現象によるものです。最終候補色彩の選定時には、特にご注意下さい。